

MONTHLY マナブパ オリ・パラを身近に 東洋学園大「2020プロジェクト」

毎月最終木曜に掲載の教育特集「MONTHLY(マンブパ)」マナブ・パは第5回。東洋学園大で先々月からスタートしたプロジェクトを紹介し、

学園祭でも継続予定

東洋学園大では、今年6月に東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた「TOGAKU2020プロジェクト」をスタートさせた。このプロジェクトは、14年に締結した大学連携協定に基づくもので、オリンピック教育の推進、グローバル人材の育成、パラリンピックの理解促進、学校行事等での大会広報、イベント開催などの活動を行っている。

今年19日と26日に行われたオープンキャンパスでは、「オリ・パラ体験コーナー」と題し、スポーツ・語学ボランティア

の取り組みを紹介したり、パラ競技のポッチャを体験できるコーナーを設け、同大への進学を考えている高校生や保護者、来場者ら、多くの人が集まった。ポッチャ体験コーナーを担当した学生は、「初めてプレーする人も多く、楽しんでもらえた。もっと身近なスポーツに感じてもらえるよう、今後もルールや楽しさを伝えていきたい」と話していた。

同大では、元学長の愛知揆一氏が64年東京大会の組織委員会の理事を務めていたことから、個人所蔵資料を大学の史料室で引き継ぎ、現在も多数保存している。今回のオープンキャンパスでは、当時の五輪旗や聖火用トーチ、記念牌などが一般公開された。来場者は、「64年生まれなので、前回の東京大会の聖火トーチを息子と一緒に持って記念撮

り、このプロジェクトは、14年に締結した大学連携協定に基づくもので、オリンピック教育の推進、グローバル人材の育成、パラリンピックの理解促進、学校行事等での大会広報、イベント開催などの活動を行っている。



ボランティア啓蒙(けいもう)コーナーでは、2020大会ボランティアの募集詳細を高校生に説明

元学長・愛知氏所蔵の64年大会資料も展示



聖火トーチを持って記念撮影する高校生2人と企画した学生(右)

よう、学生の自発性を育てていきたいと考えている。資料展示を担当した学生も、「20年の大会に生かせるように、64年の歴史を広めていく役目がある」と、ボランティアにも意欲的な姿を見せていた。同様の体験コーナーは、10月13、14日に開催の学園祭など、今後も継続して予定されている。

◆東洋学園大学 1926年(大15)11月、旧制・東洋女子歯科医学専門学校として創立。1950年(昭25)、新制・東洋女子短期大学を開学。1992年(平4)に東洋学園大を設置。創立80周年を迎えた2006年(平18)に共学4年制に完全移行した。現在は、3学部1大学院研究科を擁し、本郷キャンパス(東京・文京区)で約2500人が学んでいる。https://www.tyg.jp/

★マナブパにご意見、ご感想や部活情報、学内トピックスなどを寄せ下さい。Eメール kyouiku@nikkansports.co.jp